

## 142. お姉ちゃんとまり遊び

撮影：昭和30年4月



「あんたらしい子だから、お姉ちゃんとかへ弁当もってってよ」おかあちゃんに頼まれて、お姉ちゃんのいる畑にやってきた子どもたち。お昼休みの一刻を、お姉ちゃんといっしょにまり遊びで大はしゃぎ。来月、美しいお茶の新芽が伸び出すとき、「よいお茶を摘めますように」と手入れをする娘さん。カスリのモンペにチャンチャンコ、無造作にかぶった手拭い。笑顔が美しいですね。子どもたちのカスリの着物も懐かしいですね。

こんな光景はもう見られなくなりました。昭和30年4月、ボカボカした春の昼下がりのひとときでした。

## 143. わが家の付近

撮影：昭和36年4月



今からちょうど30年前に撮影した私の家付近の風景です。真ん中に見える平家建垂鉛鉄板ぶきの小さな家が私の家です。

あのころは、富沢の下はずれで住宅は2軒だけ、今の市道1-5号線沿いの畑の中でした。でも、富士山の眺めはすばらしい場所です。

今では、写真全面に見える原野や畑の約3万㎡が住宅地開発されて、南町区ができました。この住宅地の中を国道246号線バイパスが通っています。

フジヘンや東陽機械の会社もできました。都市計画の住宅地域で、住宅も日を追って建築されています。

## 144. 春の収穫量評定

撮影：昭和28年5月



戦後8年目、テレビ放送が開始された年です。

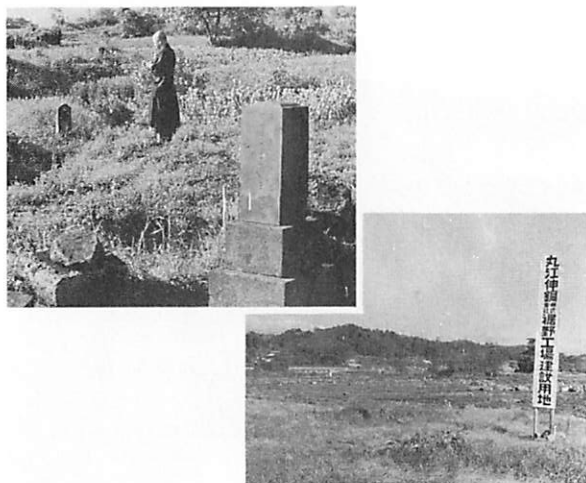
このころの農業は食糧の増産、増産で随分と農作業の大変なころでした。主食は配給制ですから、農家では米はもちろん麦も小麦も供出制で、収穫予想に基づいて供出量が定められています。この収穫予想量を算出するために評価が行われたのです。

県の係官が立ち合いのもとに、村役場の係員、農協役員、部農会役員が出役して、各地区の田や畑を巡回。標準地の坪刈りを行い、収量の算定をして栽培面積に応じた供出量が決められました。農家は収穫してその量を供出したのです。

※坪刈り＝1坪の稲を刈り取り、これを基礎として全体の収穫量を算出すること

## 145. 丸江伸銅敷地内 無縁仏供養の読経

撮影：昭和36年6月



昭和36年は、裾野町に工業立地第1号として矢崎電線裾野工場が設立された年です。この写真は、工場立地第2号ともいべき丸江伸銅株式会社の用地（7ha）で、造成に先立ち墓地の移転や無縁仏に対する供養のため、寺の和尚さんに読経をしていただいているところです。

伸銅業界はプラスチック製品の進出により厳しくなり、この伸銅会社も短命を余儀なくされ、用地は転売されて住宅開発が行われました。現在の南町区がこの地です。

## 146. 涼を求めて

撮影：昭和35年8月



戦後15年を経て、日米安全保障条約改訂の調印批准に反対の運動が盛り上がり騒然としていた昭和35年当時ですが、裾野町では中駿合併が昭和32年に完結し、生活にも活気を帯びてきたころです。

婦人方の衣装も、モンペ姿に別れを告げてファッション的な美しさが目立ってきましたが、まだ余暇などという言葉は使われていませんでした。遊びに使うだけの金はまだまだ貴重だったころですが、夏の暑さに涼をとるのは山か海でした。

裾野は富士山の麓で景色も良いところですから、涼を求めて訪れる人たちも多くあったものです。

## 147. 町民体育祭の思い出

撮影：昭和35年9月



故小林秀也さんは、昭和35年1月10日裾野町長に就任されました。この年は世情騒然としていたことは先月号に記載しましたが、裾野町ではボーイスカウトが設立され、須山では水稻の栽培が始まりました。

小林町長は町民一丸となった体育祭を現在の裾野高校グラウンドで開催しました。非常に盛り上がった体育祭となり、地区別の対抗競技では東地区の茶畑区が優勝したと記憶しています。写真は本部席のスナップと表彰式の模様です。

その後、体育祭の行事も変化して、現在はスポーツ記録会として大きく発展をしています。

## 148. 富士山御殿庭の思い出

撮影：昭和36年10月



昭和36年といえば、矢崎電線裾野工場が設立された年です。中駿が合併して、裾野町になりましたが、依然農業を中心とした農山村にすぎませんでした。

議会では、工業を中心とする工業立町の条例を制定し、矢崎電線を筆頭に丸江伸銅、三菱アルミ、トヨタ自動車などの工場誘致に成功し、当時の議会の功績がたたえられます。議会の経済委員会は、工業立町にあわせ、観光施策の必要性を唱えて、観光資源の調査を経年的に実施しました。

写真は、富士山御殿庭調査のスナップです。御殿庭の名称は、渡辺徳逸先生が名付け親と記憶しています。

## 149. 稲の坪刈りの思い出

撮影：昭和34年10月



稲や麦の検見や坪刈りという言葉は、年寄りでなければわからないものとなりつつあります。検見とは、稲や麦の収穫量を予想するために栽培田畑を見て回ることで、坪刈りとは、検見をしながら平均的な所、被害の多い所、多収を見込める所の稲や麦を、実際に1坪分刈り取って実収を見ることです。これらは、米の供出制度があったころ、毎年必ず行われていたものです。また、台風などの被害調査でも行われました。

この年は伊勢湾台風が上陸し、この地方でもかなりの被害を受けました。写真は台風の去った後、坪刈りを行っている風景です。

## 150. 青果市場の今昔

撮影：昭和35年12月

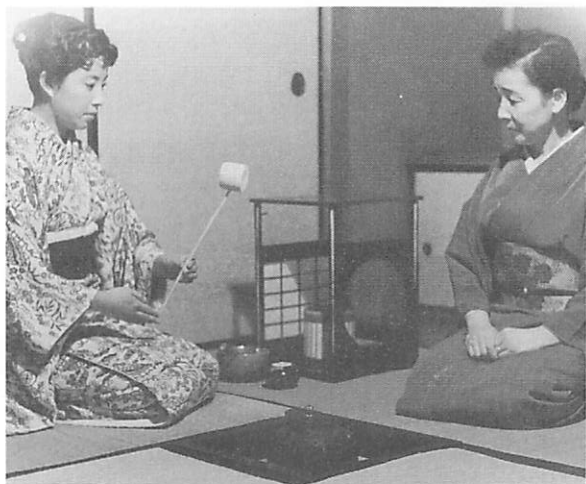


この裾野青果市場は、昭和35年12月に開業しました。戦前には二本松青物市場がありましたが、これは個人経営だったと思います。現在の市役所の筋向かい辺りにあって、富岡さんという方が経営していた記憶があります。

戦後裾野に青果市場がなく、三島の青果市場へ自転車で通ったものです。その後、御殿場市場が集荷場所を定めて集荷に回るようになり農家としては随分助かりました。現在は農家も減少してしまい、市場出荷も少なくなったと思いますが、今はどの農家でも自家用車があるので、いろんなどころへ出荷しています。

## 151. お茶のけいこ

撮影：昭和33年1月



戦前この地方は農村部でしたので、お茶のけいこをしている娘さんなど数える程しかいませんでした。お嫁入り仕度には、和裁のけいこぐらいでした。

国をあげて高度成長を遂げ、生活文化も思わぬ速度で発展し、国民全体が種々の文化に接し、色々な趣味も身につけるようになり、娘さんといわず、年長の婦人たちもお茶のけいこをすることが多くなったと思います。もちろん、ご婦人だけでなく、男の方もお茶のけいこをしている方も多いことでしょうね。

私のような野性人でも、時にふれ、お茶をたしなみながら自然をめでてなど思うことがあります。

## 152. 水車の思い出

撮影：昭和35年2月



水車の回っている風景など、今の若い人たちは見たこともないでしょうね。裾野市内でも、ほとんど姿を見掛けなくなってしまいました。最近、新たに水車を作り、観光名所にしようというところが出てきたようです。

水車は水の力を借りた動力源なのです。私の小学生時代には、母の手伝いで水車小屋へよく行ったものです。穀物を臼に入れ米をつく杵の音、小麦を粉にするひき臼の音、カッタン、コットン、カッタン、コットンと、外は水で回る水車の音、昔懐かしい田舎の音です。

## 153. 麦の省力栽培が始まったころ

撮影：昭和28年3月



この地方の農業の栽培作物は、米と麦が主体でした。米の刈り取り収穫から、その跡地を耕して麦をまき終わるまでの期間は、目の回るような忙しさでした。つまり、水田は米と麦の二毛作、畑は甘藷やニンジンなどの根菜類と跡地が麦や野菜の二毛作、三毛作で、10月中旬から12月までは猫の手も借りたい季節だったのです。

このころ、農業の機械化として耕運機が導入されつつあった時代で、県西部地区では試験的に使い始めました。裾野町の農業技術者連絡協議会では、浜北町を訪れ、試験地を見学して勉強し、地域への導入について研究をしたのです。



## 154. 裾野ライオンズクラブ 認証式

撮影：昭和41年4月



裾野ライオンズクラブは昭和40（1965）年9月12日に結成され、翌年4月25日認証式が盛大に挙行されました。

静岡県内で27番目の結成です。

皆さんは、すでにご承知のように、ライオンズクラブは地域社会への奉仕活動を活発に行っている団体です。紙面の関係で詳しくは述べられませんが、主な事業の一つに献眼運動があります。献眼登録受付を行っているもので、熱心な運動と、皆さんの温かいご理解に支えられて、昨年末（平成4年）現在で1,781名の登録と、献眼者96名の崇高なご奉仕をいただいたそうです。

## 155. 児童植樹リレー

撮影：昭和31年5月



児童福祉の効率をはかるため、裾野町、深良村、富岡村、須山村が一丸となり、中駿児童委員協議会を設置して児童福祉の向上に協力したのです。この記念行事としてこの年の5月5日こどもの日を期し、「植樹リレー」を行うことになりました。この日、中駿の児童代表300人が集まり、各地区ごとにモクセイの幼木1本を運び、沼津にあった東部福祉事務所までリレーして、事務所の庭で植樹を行いました。所長さんをはじめ職員総出で、無事に植樹を終わり大変喜ばれました。写真は、裾野駅前集合してリレー出発の一場面です。

## 156. 宗祇法師の旧墓所

撮影：昭和34年4月



室町時代中期の連歌師宗祇は、市内にある桃園山定輪寺との交流が非常に深く、生前からお弟子さんたちに、俺の死後は定輪寺に葬るようにと申しつけていたといわれています。

旅の途中、箱根山中あたりで死亡し、お弟子さんたちが師の亡骸を担いで定輪寺に至り埋葬したと伝えられています。その墓所は定輪寺境内西の山裾にあったのですが、東名高速道路の建設により移転せざるを得なくなったのです。現在は墓所、歌碑ともに定輪寺境内に移され、丁寧な法要が続けられています。

## 157. おかいこさん

撮影：昭和35年7月

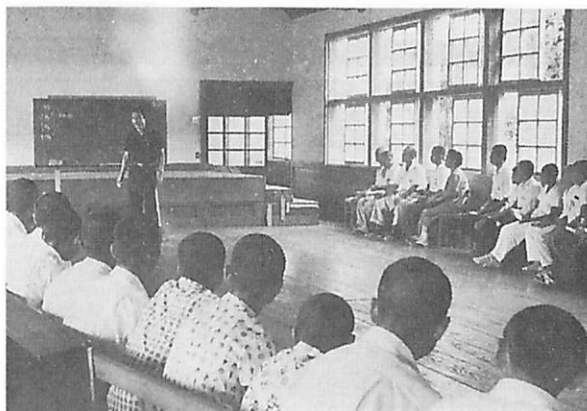


この地域は、戦前中駿地方と言われ農村地帯でした。しかし、農耕面積が狭小で農作物も産地的な産物は少なく、個々の農家によってあらゆる作物が栽培されていましたが、経済的には恵まれていたとはいえませんでした。

このような農家経済の中で養蚕は大きな財源でしたから、養蚕農家では『おかいこさん』と呼んで大事に飼育したものです。農協泉支所あたりに繭市場があり、繭かきが終わると父が大きな袋に繭を入れて、天秤棒で担いで売りに行くと、家内中でその成果を期待して父の帰りを待ちわびていたものです。

## 158. 子ども会リーダーズクラブ 勉強会

撮影：昭和36年8月



児童福祉を進める一環として、子ども会活動の推進指導が打ち出され各地において子ども会が誕生しはじめたころ、裾野町においては他市町村に先がけてこの活動が活発となり、各区全部に子ども会が誕生しました。しかし、子ども会がどのような活動をしたらよいかわからないので、中学高学年生や高校生の中からリーダーズクラブを作り県から講師を招き、子ども会世話人役員と共にリーダーズクラブの勉強会を数回にわたって実施しました。これを後輩から後輩に引き継いで、子ども会活動の充実をはかりコミュニケーションをはかってきたのです。

## 159. 竹枯し試験の思い出

撮影：昭和34年9月



農業用除草剤の使用が始まったころ、県の林業関係課では、山林内の竹笹などを枯死させる除草剤について、試験的な散布を行うことになりました。そして、箱根山三国峠に連なる神奈川県境にそった茶畑山が試験地に決まりました。当時は、箱根山に芦ノ湖スカイラインができていませんでした。ここは、芦ノ湖から吹き上げる強い風で、かん木がわずかに生えており、箱根竹が足の踏み場もないほどビッシリと生い茂っている所でした。ここを試験地とするため、地元茶畑の方々に苦役していただきました。しかし、あまりにも密生していた箱根竹のため試験は失敗に終わりました。

## 160. 忠ちゃん牧場

撮影：昭和36年10月



おなじみの忠ちゃん牧場。これは昭和36年10月当時で、牧場に羊を放牧したころの風景です。この場所は、元演習場内に含まれており一般利用はできなかったの  
で、乳牛の立ち入り許可を得て草を喰わせたのがはじまりです。昭和28年ごろだったでしょう。その後、種々の変遷を経て、この地は国有地払い下げにより須山関係者の所有となり、その関係者の承諾を得て正規の牧場経営がはじまったのです。

雄大な富士山の真下で見る牧場。ただそれだけで絵になる風景ですが、最近では観光牧場としてジンギスカン鍋などもあり、観光客の好評を受けているようです。

## 161. 農繁期の思い出

撮影：昭和35年11月



農業機械の普及により今の農繁期はいつごろなのかわからないほどになりました。昔の農業は大変な労力を必要としたのです。ことに6月の田植え時と秋の収穫時期は、『猫の手も借りたい忙しさ』と形容されました。秋の稲刈りはもちろん手刈りです。刈った稲は小さく束ねて掛け干しにする、子供もできるかぎりの手伝いをします。刈り取りは大人、刈り取った稲束を運んで掛け干しにするのは子供たち、できることを分担作業です。稲の収穫を済ませると次は田をおこして麦まきです。山の畑からは早く掘り取ってくれと、さつまいもの声が聞こえてきます。

## 162. 麦まきのころ

撮影：昭和33年11月



麦まきもあと2、3日で終わりです。その後は落葉かきやらタキギ取り、お正月を前にまだまだ忙しいけれどまきつけが終われば、やれやれ一段落です。この地域は水田がほとんどないので畑に陸稲の作付けが多かったから陸稲のあと地を耕さなければならない、おかほ地うないと言って、これがまた大変な重労働だったのです。作業は夕陽が沈んで薄暗くなるまで働きます。『さあ、ぼつぼつしまうか』おやじさんがそう言ったころにはもう腰が痛くてまっすぐに伸びなくなっています。こんなことを思い出していると昔の人たちの働きぶりが浮かびます。

## 163. ツツジの早咲き試験

撮影：昭和39年12月



花木園芸の分野では、ビニールの出現以来あらゆる種類と言っていいほどの促成栽培が普及しましたが、ツツジの花は難しく世界の植物学者が開花促成に取り組んでいました。静岡県農業試験場でも、ツツジ栽培の産地伊東市の田代で3年間早咲き試験を行いました。が不成功に終わり、試験を中止しました。筆者は、裾野町役場の経済課に奉職していたので、ツツジ栽培を普及していたため、県農業試験場において県と町の共同試験を行い、標高1,400mの高冷地利用の促成栽培により見事に1回の試験で満開となる成功を収めました。昭和38年12月15日開花を始め、20日には満開となりクリスマスに利用されました。写真は昭和39年の筆者ハウスでの開花写真です。

## 164. 富士山とカヤブキ屋根

撮影：昭和35年2月



富士山の見える所にカヤブキ屋根の前景など貴重な風景だと思います。とは言っても33年も前の写真ですからこの家も改築されたので、この風景をもう見ることはできません。どこへ行っても、思いもよらぬ早さで開発が進んだので、残しておきたかったなあと思うような自然もなくなりました。十里木方面も観光施設や別荘などずいぶん開発されましたが、このころはまだ静かな山里で、東京方面から来る人たちが必ず口にする言葉は、『空気がおいしいなあ』でした。いつまでも良い環境を残したいものですね。

## 165. 千福共同作業所の完工

撮影：昭和35年3月



昭和35年は日米安全保障条約改定に調印、6月国会で批准反対運動が盛りあがったり、浅沼社会党委員長が刺殺された年です。須山では水稲の栽培が始まりました。千福では、国の補助で農業の共同作業所を建設して、共同作業所や共同農機具の収納場所にしました。国の補助は、この作業建設が『新農村開発事業計画』に認定されたためです。作業所の完工を祝って投げ餅がまかれました。故人となられた当時の裾野町議会議長の市野昇さんをはじめ、経済委員や地元有力者の方々の姿が見えます。この建物も今はもうありません。



## 166. 草競馬のあったころ

撮影：昭和31年4月



昭和31年といえば戦後10年、食糧難の危機はようやく明るさが見えてきたところで、9月には深良村が裾野町へ合併、御殿場線にディーゼルカーが運転された年です。

裾野地帯はまだ農業を主とした農山村だったので農業が産業の主力になっていました。草競馬は当時、農民にとって年に一度の楽しみな行事でした。農家の若者たちが我が家の愛馬にまたがり駆けくらべをするのですからスタートから大変です。勝って優勝旗を肩に意気揚々と帰路につく馬も、なんとなく誇らしげな顔に見えたものです。

## 167. 麦の刈取機実演

撮影：昭和36年5月



この年は、須山に水稻栽培が始まった年で、農業の機械化はまだまだ程遠い感がありました。このころはまだ水田は二毛作で、稲の収穫のあとは麦類の作付けで、大麦、小麦、ビール麦などのまき付けをするため非常に多忙な秋でしたが、今度は5月になると麦を収穫して直ちに田植えシーズンに入るので秋以上の忙しさだったのです。

しかし麦類は全部手刈りだったのでこの省力の機械化は容易ではなく、機械メーカーも非常に苦心したのですが良いものはできませんでした。これは初期の刈取機の実演でしたが、時代の推移とともに麦類の栽培が減少し、ついには作付けがされない状態となり、麦の刈取機は完成を見ないまま姿を消したのです。

## 168. 養蚕のころの思い出

撮影：昭和35年6月



養蚕（カイコ）とは、カイコを飼育して生糸をつくるための繭をとることです。養蚕は、カイコの食事となる桑の栽培がなくては出来ません。まず蚕種製造所から蚕卵紙を購入し、用意した蚕室で蚕卵紙からふ化させ蚕座に移し、一令、二令、三令とカイコに適した桑の葉を与え五令まで飼育する。成熟したカイコをシキタと呼びました。繭をつくらせるためにまぶしにうつします。モズに入れるといい、上簇（じょうさく）のことです。カイコはの中で繭をつくります。繭が出来上がりカイコが完全なサナギになれば、繭かきといってきれいに繭をとり、大きな袋に入れて天秤棒でかつぎ、繭市場に持って行き競り売りに掛けます。重労働ではないが大変気疲れする仕事でした。

## 169. あのときのおじいさん

撮影：昭和34年7月



昭和34年、この年は悲喜こもごもの出来事のあった大変な年でした。まず喜びでは、皇太子、正田美智子さんの御成婚です。東京国際見本市も開催されました。我が裾野町では、町民館、公民館が建設されました。騒動では、安保改定反対デモ隊が国会構内に乱入、また大型台風が伊勢湾に上陸し、大きな被害がでました。これは、「伊勢湾台風」と名付けられました。裾野を含むこの地方も、大きな被害をおおむりました。

でも、このおじいさんのように農業一筋60年。喜びも悲しみも乗り越えて、何事も超越した風ほうにはただただ頭の下がる思いがして、悲しみの中にも喜びを感じます。

## 170. 子ども会リーダーズクラブ 研修会

撮影：昭和36年8月



広報すその平成5年8月15日号にも掲載した子ども会リーダーズクラブの夏期林間研修会の様子です。子ども会の活動は、リーダーズクラブのあり方にも大きく左右されます。リーダーズクラブが活発な活動を行えば、必然的にその地域の子ども会はめざましい活動をしめます。

この日には、主として屋外で行うゲームの指導方法について勉強しました。父兄たちや子ども会世話人と共に熱心に講師の一举手一頭足を見落とすまいと見つめる目は、真剣そのものでした。裾野町では、他市町村に先がけてこの活動はたいへん活発なものでした。

県東部福祉事務所長さんからは、たいへん好評な賛辞をいただきました。

## 171. みつまたの栽培

撮影：昭和32年9月



昭和31年、この年は御殿場線にディーゼルカーが運転を開始しました。9月30日、深良村が裾野町へ合併しました。西小学校では、裾野町内にはない産業を考えて、荒地や山地でもよく成育する「みつまた」に目をつけました。学校の実習地へ植栽することになり、裾野町役場経済課で富士宮市のみつまた栽培地より苗を購入して、西小学校の高学年生が約10aの実習地にみつまたの苗を植えました。

それから一年間熱心に管理したかいあって、こんなに大きくなったみつまた（写真参照）を収穫することが出来ました。写真は高学年生によるみつまたの刈取り収穫の実習風景です。